

「原子力基盤クロスオーバー研究の展開
について（案）」に寄せられた
国民からの御意見

平成10年3月

原子力委員会

基盤技術推進専門部会

はじめに

原子力委員会基盤技術推進専門部会では、平成10年2月3日(火)に開催した第25回基盤技術推進専門部会において、基盤技術推進専門部会報告書案「原子力基盤クロスオーバー研究の展開について(案)」を同年2月6日(金)から3月9日(月)までの間、国民の意見を聞くことを決定し、所要の公開の手続きを行った。

その結果、期日までに3名の方から計8件の意見が寄せられた。

本資料は、その意見をそのまま複写したものである。なお、各意見の下に括弧書きしているものは、事務局が整理のために付けたものである。

氏名

平田 幸雄

(年齢

67才)

(概要記入欄) 50字以内でご記入下さい。

へはスオー こらなを研 子育がある	バー研究の 究) 唯進ま か、いこうも	長年につ とと重 山なりにこ	2(3)に 談の課題と して来	終りし し
-------------------------	---------------------------	----------------------	-----------------------	----------

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

はの道ス が、いこうも 不理解でま す文を全 うな文面 カアカナ文	証書が研究 証書、素 ま世人こ くめかり ほならぬ 子の説明	さゆ(葉) るまは かき字に せん元 おのか あつた	が示す外 そにロー いで大 新法に 色い	まのく は、め くに 新法に 解るま
--	---	---	----------------------------------	--------------------------------

氏名 平田 新也 佳

(年齢 67才)

(紙要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

最近の世帯 の状況	フコシマの 原発事故	原発事故 の影響	原発事故 の影響	原発事故 の影響	原発事故 の影響
--------------	---------------	-------------	-------------	-------------	-------------

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

子供も安全 な環境で	子供も安全 な環境で	子供も安全 な環境で	子供も安全 な環境で	子供も安全 な環境で	子供も安全 な環境で
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

氏名 田中 千代子

(年齢 67才)

(概要記入欄) 80字以内で記入下さい。

ろう期つ口	スオーバー	研究が達成はしめれば	現在とどう
な効果を	あはれうし	か	

(ご意見記入欄) 800字以内で記入下さい。

昭和62年	6月に	長期	計画がなされ	9月に	薬師部会が
設置された	1年間に	わたり	研究がすす	む事になり	いおうで
この結果が	しめさうに	わう期にあ	けこの効果	を	大策と見
あはれうし	と	いふうか	この効果	を	ほとん
に82年	4月	7月	あうが		

氏名 平田 マサトシ

(年齢 67才)

(概要記入欄) 90字以内でご記入下さい。

フリスオー ではさらに	バー研究の 研究を深め	結果を社会 や社会に	求めた他 方がある
----------------	----------------	---------------	--------------

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

長年親 がもたらした	社会のなか での生活	その変遷や 社会に	とんが 取らねば
---------------	---------------	--------------	-------------

氏名 手田 研 雄

(年齢 67X)

(概要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

手田の年度	の手算帳を	13年度	余はどの	うな研究
表に示した	れは、いま	か、研究	国から、	とあま
この後、	は?			

(ご意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

研究手算の	13年度	はどの	研究用	に使用
表に示した	うか、	その	明細を	研究
数が示さ	れていま	が、その	研究	の
は?				

氏名

平田 行雄

(年齢

67)

(要記入欄) 80字以内でご記入下さい。

基礎技術推進事業の推進	専門分野の	一般の
いふは、この	りて、かく	一般の
うも、ふ	な、い	

(意見記入欄) 800字以内でご記入下さい。

確かに、この	の、お、う、な、別	会、の、決、定、を	は、女、性、に	一般の
で、い、う、理、解、し	が、た、い、道、が	あ、ま、か、も、知	く、な、い、か、	産、官、の、自
後、に、違、う、	した、研、究、用	利、便、と、な	っ、て、い、う、ま	う、ぶ、す、の、確、
か、う、な、研、究、が	う、の、受、け	さ、い、し、こ、ま	見、か、あ、つ、て	な、い、
な、研、究、が	に、な、る、と、思	い、ま、う、の、こ		

氏 名 五十嵐 康人

(年齢 40歳)

(概要記入欄)

リスク管理技術の研究をクロスオーバー研究の「今後推進すべき研究テーマ」の中に加えて、幅広い研究体制と議論を基にして、取り組むべきである。

(意見記入欄)

今回の「原子力基盤クロスオーバー研究の展開について(案)」を拝見して不思議に感じたのは、第3期に推進すべき研究テーマの中に、リスク管理技術の研究が含まれていないことです。先般の国内での小規模な事故においても、適切なリスク管理がおこなわれなかったため、いたずらに事態が混乱しました。原子力施設事故に限らず、我が国における緊急事態への対処は、全般的に、諸外国に比べて立ち後れているように思われます。例えば、阪神淡路大震災の際も、現場情報の収集と指揮系統の不在のために、本来、助かってもおかしくない人命が失われたように考えます。我が国での緊急事態に対する一般的な反応は、ある意味で情緒的で、個人の責任感に帰されることが多いのですが、本質的には、システムチェックな取り組みがないことに原因があると考えます。これまでのクロスオーバー研究でも、施設事故などを想定し、種々のモデル開発などが行われてきたようですが、実際の緊急時において本当に機能し得るのか、疑問がもたれます。例えば、これらモデルは、本来的には同一の計算機プラットフォーム上で、適切なインターフェースを介して、データの授受が可能であることが要件だと思われませんが、現状では、こうした努力は行われていないのではないのでしょうか。したがって、社会的、経済的にも妥当であるリスク管理技術の系統的研究が、社会科学まで視野に含めて必要だと思われます。すでに、ヨーロッパにおいては、チェルノブイリ事故の教訓を汲んで、最新の計算機技術を利用して緊急時対応のシステムが組まれています。参考までにドイツの事例を別に添付いたします。我が国においても、リスク管理技術の研究を広く諸研究機関などの連携により押し進め、今後急速に発展するだろう東アジアでの、原子力防災に備え、また、地震、火山、津波など大規模自然災害についても社会対応能力を育てることが重要だと思われます。

(備考)

本意見に添付されているドイツの事例は、意見として800字を越えるため割愛致しました。

